

●人情復活

貧しければこそ、生きるために一生懸命であればこそ、本当に純粋に人を愛する心が生まれるの
だろう。ミゼットを乗り回す鈴木オート一家の暖かさ、六子の新鮮さ、茶川の生きざまのすば
らしさ、人間らしさ、一平と淳之介の友情等々、中でも、縁もゆかりも無いと淳之介をひっぱ
いて抱きしめるシーンは圧巻だった。人情復活を祈りたい。



60代 女性

●大人の姿こそ子供の心 を育てるのだとつくづく感じました。豊かさに関係なく人と人
との心の結びつきは、今も変わらない大自然の夕日に象徴されていて、この映画に出会ったこと
に感謝しています。

40代 女性

●失われたものの大きさ

高度成長で人々の暮らしは豊かになった一方で、代償として失われたものの大きさを痛感する。
中でも今日絶え間なく起こる親子の事件やいじめ・DVなど、根幹にある家庭や地域のあり方
についてどうあるべきかを問われた作品でした。

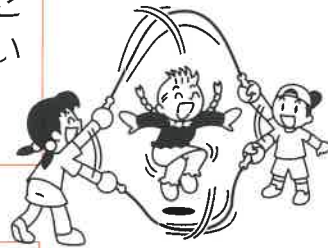
60代 女性

●遠く忘れていたもの を呼びさましてくれた。心の中で遠のいていた美しいものを目覚
めさせてくれた。もっと多くの中学生、高校生に見てもらって感想を聞きたい。

70代 女性

●今の子どもたちは、生まれながらに全てのものがそろっており、こ
ういう貧しさや電化製品の無かったこと、生きることの大変さを体験してい
ないから、子供に見せれば理解できて良い。学校で見せれば良いと思う。

70代 男性



●こんな素晴らしい映画を、 市民団体のひとつが上映会を企画
すること自体が驚きである。誠に素晴らしい事業である。

50代 男性

編集後記

今回は、昨年暮れに上映した「ALWAYS 三丁目の夕日」を特集しました。
物はなくても夢と希望があり、豊かな心と人情にあふれた人々に感動の涙を流したのは何故
なのでしょう。凶悪な犯罪や、いたましい事件があとを断ちませんが、「美しい国」づくり
がかけ声だけで終わらないよう願ってやみません。
尚、この情報紙は、今年から年1回の発行となり、次号からは「広報すわ」へ挟み込んでお
届けいたします。是非ご覧くださいようお願いいたします。

ご意見お問い合わせは — ◆諏訪市まちづくり・男女共同参画推進課 TEL 52-4141 内線289
E-mail machi-danjo@city.suwa.nagano.jp

□情報紙「いきいきパートナー」は古紙配給率100%の紙を使用しています。



特集
市民が集い感動した
2時間13分



諏訪市・諏訪市男女共同参画市民協議会

市民が集い感動した2時間13分

ともに生きる諏訪セミナー「ALWAYS 三丁目の夕日」上映会を12月2日（土）諏訪市文化センターにおいて開催しました。

この映画を、既に映画館、DVDやテレビで多くの方がご覧になっています。しかし、それにもかかわらず当日は大勢の方が来場され、上映終了後の皆さん目を真っ赤にして、手にはハンカチが握られていました。今回は、観客の皆さんの感動を特集しました。

●地域愛、隣人愛、家庭愛●

映画のストーリーのように、こんな素晴らしいコミュニティの触れ合いがあれば、日常茶飯事の犯罪や子供のいじめ問題も無くなるに違いない。
明日への希望に向かって明るく懸命に生きてゆく姿に感動した。30代 男性

●お母さんはえらい●

ものが無くて貧しくても、のびのびと希望を持って生きている。この時代は、とっても楽しいと思う。「困ったときに使いなさい」と言ってセーターのひじに入れたお金を見たとき、お母さんはえらいと思った。けど、洗濯はどうするのだろう？
小学生 男子

●未来への希望●

どんなに貧しくてモブライドを持っていた。女の子の職業が修理工であり、男女問わず何でもやった。お隣は身内同然、自分勝手ではない。人のことを思い人情豊か。自分の人生と共感ができて懐かしさが溢れていた。この時代は憧れと希望、可能性があった。今の時代は、知識はあっても知恵が無い。
50代 女性

【物語】 あのか頃の日本は裕福ではなかったけれど、人々はあかるく“未来”に向かって一生懸命生きていました。東京タワーができるこの年、東京下町の個性豊かな人々がくり広げる希望と感動のお話です。

ALWAYS 三丁目の夕日

昭和33年携帯もパソコンもTVもなかった
でも、どうしてあんなに楽しかったのだろう…

待ちに待った映画会

携帯もパソコンもTVもなかったのに、どうしてあんなに楽しかったのだろう。こんな書き出して始まるのが映画「ALWAYS 三丁目の夕日」です。
半年ほど前、この映画が面白いと言う話を聞きました。以来、どうしても諏訪市で上映したい、そんな思いが強くなってきました。今回、男女共同参画市民協議会の賛同を得て実現しました。
待ちに待った映画会の当日。前夜のテレビ放映はいささかショックでしたが、ご年配の方々子どもたちも含め500人を超える皆さんにご来場いただきました。
映画が始まりました。昭和33年、東京タワーが姿を現し始めた頃の下町、集団就職や上野駅、ミゼットが走り、ゴム飛行機が空を飛び、五円店の駄菓子屋、風鈴売り、テレビの中の力道山、冷蔵庫、「ただいま、行ってきまーす」とランドセルを投げて出ていく子どもの声…次から次とセピア色に塗られた記憶が甦ってきました。どうしてこんなに涙が出るのだろう。目の周りがすっかりきれいになってしまったようでした。最後にヒロミさんが見えない指輪をかざすシーンがあり、見えない先にある夢や希望を思うと涙が止まりませんでした。
映画が終了し、目を赤くした皆さんが声を掛けてくれました。「よかったよ」「次はいつやるの」「今度は東バル跡地で映画祭をしませんか」と…
続編「ALWAYS 三丁目の夕日」が制作されると聞きました。みなさんとふたたび一緒に見ることができたらと願っています。

諏訪市長 山田 勝文

●本当の「愛」というもの●

日本の昔の時代を観ることができて、とてもよかったです。戦後の日本の人々は貧しく、今のように裕福ではなかったけれど、人々が支えあい、協力し合って生きていたんだなあ～と実感しました。とても心が温まる映画でした。
中学生 男子

●泣いたり笑ったり・心が安らいだ●

このような映画を、家族や他の人と一緒に観られることは大変良いことだったと思う。
20代 女性

●幸福はお金と関係ないと思った！●

苦しくても真剣に生きていた人々の生活がそこにあり、それなりに幸せな時代であったと思う。
現代は、いじめ、自殺、談合等暗い言葉がマスコミを賑わせているが、それに起因する社会的な構造を変革するまでは期待しても難しいように思う。個人の自我を確立し、自分自身を強くして生きていくしか無いように思う。
40代 男性